

第18回軽金属学会功労賞

軽金属学会功労賞は、永年にわたり軽金属学の発展ならびに当会の活動に顕著な貢献をした者に贈られる。



大瀧 光弘 君
(株式会社UACJ
技術部 主査)

大瀧 光弘 君は、1986年古河電気工業株式会社に入社後、古河スカイ株式会社を経て2013年より株式会社UACJに勤務し、一貫してアルミニウム等の casting・凝固・リサイクルに関する研究開発を行ってきた。このような研究開発の成果は学協会において高く評価されており、日本金属学会論文賞、軽金属学会論文賞、日本鋳物協会小林賞など多数の賞を受賞している。また、NEDOのプロジェクト「非鉄金属系素材リサイクル促進技術研究開発」ならび「アルミニウムの不純物無害化・マテリアルリサイクル技術開発」に従事し、自動車スクラップのリサイクル、特に不純物除去技術に関する大型化・連続化を含めた実用化技術開発を行い、大きな成果を上げている。加えて、実用アルミニウム合金の casting割れに関する基礎研究結果に関しても多くの研究成果を報告するとともに、軽金属基礎技術講座の講師を務め人材育成にも貢献している。学会では、企画委員会委員、総務委員会委員ならびに大会運営委員会委員を務め、軽金属基礎技術講座、シンポジウムの講師・企画世話人、人材育成事業のまとめ役、さらには関東支部運営委員として工場見学会開催に尽力するなど多大な貢献を行っている。

以上のように、同君の軽金属に関する功労は極めて顕著であり、ここに軽金属学会功労賞を授与する。



中嶋 博 君
(北陸アルミニウム
株式会社
ハウスウェア事業本部
キャスト工場 工場長)

中嶋 博 君は、1983年に北陸アルミニウム株式会社に入社し、以来一貫してアルミニウム合金製家庭用器物の製造と開発に取り組んできた。2008年からはキャスト工場にてアルミキャスト製品の製造技術にかかわり全体管理を補佐するとともに、現在は材料品質向上プロジェクトのリーダーとして、そして2015年からは、工場長として製品のさらなる品質改善を目標に第一線で活躍しており、富山県の地場産業であるアルミニウム製品の品質向上ならびに生産性向上に尽力している。さらに北陸支部でのオピニオンリーダーとしての役割を担ってきており、特筆すべきは2007年と2013年に富山で開催された軽金属学会春期大会では、実行委員会委員として北陸支部独自の企業特別企画の立案と実行における中心的役割を果たし、大会を成功裏へと導いた。2009年からは軽金属学会北陸支部の幹事として、本格的に支部事業の立案と運営にかかわるとともに、北陸地区所属の関連企業との生産技術力の向上にかかわる活動、若手技術者の育成に精力的に取り組んでいる。同君は社内における人材育成、とくに若手技術者の育成にも勿論、力を注いでおり、とくに後継技術者の活動の場として、北陸支部講演会での企業発表、研修会を積極的に活用し、能力育成に努めている。

以上のように、同君の軽金属に関する功労は極めて顕著であり、ここに軽金属学会功労賞を授与する。



藤原 雅美 君
(日本大学工学部 教授)

藤原 雅美 君は、永年にわたって機械材料および材料工学の教育・研究に携わってきた。自ら開発した精密な測定機器を駆使して軽金属材料などの高温変形律速機構を解明し、押込み試験とモデリングによってクリープの構成式をある確度で予測できることを示した。これらの知見は軽金属誌における解説にもまとめられている。軽金属学会運営面では、東北支部役員（評議員）として、学生会員数の増加を期して支部主催の講演会の趣旨を一部改め、一般学生を対象としたものまで含めるように主導した。第一線で活躍中の研究者や技術者が最先端のテーマを平易に解説することを旨とし、学びの動機付けと産学交流の場の形成に尽力した。高橋記念賞や希望の星賞の選考にも永く関与し、卓越した技能者の顕彰に努めるとともに、未来を担う若手人材の育成に注力した。「軽金属」東北支部特集号では、編集委員として、7つの大学と企業からユニークな12編の論文が掲載されることに協力した。東日本大震災のあった年の暮れに開催された創設60周年記念講演会では、実行委員として東北支部会員に奮起を促すとともに、風評を排除し、復旧・復興の様子が学会関係者に正しく伝わるように努力した。さらに、第128回春期大会では実行委員として責務を全うし、同大会を成功裏に導いた。

以上のように、同君の軽金属に関する功労は極めて顕著であり、ここに軽金属学会功労賞を授与する。